

2005年8月24日

## ORCCA J (日本ORCクラス協会) 問題について

### 1、オフショアセーリング協会

本年1月22日の理事会において、「オフショアセーリング協会が4月1日为目标に発足する」との報告が富田常務理事よりあった。

出席の外洋系の理事から多数の質問が出た為、「外洋の中でももう少し議論を重ねたら」という意見が多数あった。

上記の状況にも係わらず、富田常務理事は1月27日にISAFとORCに対して「オフショアセーリング協会を設立する」旨のメールを送った。

2月3日の常任委員会において、富田常務理事に説明を求めたが拒否された。

2月19日の理事会において下記の結論を得た。

- 、1月27日にISAFとORCに送った「オフショアセーリング協会設立」の報告は訂正する。
- 、外洋セーリング協会の問題については一時凍結して慎重に議論を重ねて解決して行く。

については富田常務理事より、訂正のメールが送られた。

については4月7日に外洋懇談会が行われ、山崎会長を始め、全国から約20名の外洋加盟団体の会長、関係者が集まり意見交換をし、「外洋系のやりやすい組織作りをして行く」との結論を得た。(富田理事は欠席)

4月23日の理事会において、富田理事よりオフショアセーリング協会の経緯の説明と謝罪がなされた。

外洋統括委員会の人事の変更があり、4月23日をもって富田理事は計測委員長となった。

### 2、日本ORCクラス協会

5月10日、計測証書の発行の為にORCが日本ORCクラス協会と契約した事が判明した。

組織	会長	福田義一
	副会長	小田泰義、戸山昌一
	業務執行専務理事	市原恭夫
	業務執行常務理事	富田稔
	事務局長	野口隆司

契約日 4月18日

本年4月1日以降の証書は契約日の数日後にORCクラス協会に書き換えられていた。

6月13日に日本ORCクラス協会の概要が初めて加盟団体に知らされた（ORCクラス協会に関係している加盟団体の関係者はすでに知っていた）

6月18日に会長、副会長、外洋関係者（JSAF外洋系理事、外洋加盟団体会長、評議員）を集めた会議が行われた。

会長より、次の発言があった。

今まで、レースシーズンを前にして混乱を避けるため、レーティング証書の発行を黙認して来た。

ORCクラス協会をJSAFのクラス協会（特別加盟団体）として認めるよう、要望が出ているが現状のままでは認める事は出来ない、何故なら4月7日の外洋関係者懇談会でも合意した「外洋の関係者間で外洋のやりやすいように慎重に議論していく」という約束が守られていない。

また、外洋関係者の総意が得られていない。

ORCクラス協会関係者からは、設立の経緯と理由の説明の後、設立の仕方はおかしいにしても設立してしまったので認めて欲しい、等の発言があった。

他の出席者からは

ORCクラス協会の必要性は理解できるが、設立の仕方がおかしい、協会の人事を変えて認めるべきだ。

外洋系の中でも反対者が多くいる、もっと議論して詳細を詰めるべきだ。

反対者を除外して議論して「賛成多数を得た」というのはおかしい。

計測のことを知らない人たちが計測業務を私物化しているのではないか。

等の意見が出された。

### 3、日本ORCクラス協会について調査した結果以下の点が確認されている。

、従来、JSAFになる前の証書発行業務はNORCが行って来ており、計測料金の徴収及びORCに対するレビィの支払いもNORCがおこなって来た。

また、JSAFへ統合後もJSAFが引き継いで業務を行って来ており、現在もIMS証書の発行を行っている。

、証書発行業務は外洋計測委員会が行い、業務の一部を外注して来ており、業務の受託者とはJSAFとの間に契約書が交わされてきていた。

、17年度については契約書が交わされていなかったが業務の受託者は従来通り、計測業務を行い、4月20日頃にはすでに約80艇の証書の計算が終わり、印刷して発送するだけになっていた。

、富田理事が4月23日の理事会で計測委員長になった直後に富田氏から、業務受託者に、すでにJSAFとして準備された証書のデータを日本ORCクラス協会

の証書に変更するよう指示が出された。

- 、日本ORCクラス協会とORCとの契約は4月18日になされたが、5日後の23日の富田理事が釈明した理事会において何の報告もなされなかった。
- 、ORCクラブの関係者は知っていたが、知らされていない加盟団体は従来通り、JSAF計測委員会が証書の発行業務を行っているものと信じ、JSAFハンディキャップ計測委員会に証書発行料を支払っていた。
- 、ORCが日本ORCクラス協会と契約を締結した理由の中に日本IRCクラブの設立を考慮してと説明されていたが、日本IRCクラブと契約を締結したRORCは日本IRCの関係者からの日本における状況説明が事実と違うと判断し、日本IRC協会との契約期間(2005年12月末)が終了した後、再契約はしない事をJSAFに伝えてきた。

#### 4、問題点

- 、4月の時点で従来通り、約80艇の証書の発行準備が出来ていたが直前に富田計測委員長の指示でORCCAJに変更された。(受託者はこの変更指示を富田氏が計測委員長の立場及び理事の立場で出したと認識している。)
- 、従来の証書発行業務の流れが変わり、また外洋の事業計画が大きく変わる重大事項にも変わらず、契約後の4月23日の理事会においても何の報告もされなかった。
- 、外洋加盟団体宛に証書発行料の請求書が「JSAFハンディキャップ計測委員会」の名で発行され、集められたお金がJSAFではなくORCCAJに渡っている。この件に関してのJSAFの質問に対しては、「日本ORCクラス協会の名前を出すべきところを間違えて出してしまった」との回答が来ているが反対している加盟団体に経緯の説明をしたのか不明である。
- 、現在のJSAFホームページ上でも証書発行の案内は従来通り、加盟団体に申し込むことになっており、ORCCAJに申し込むようにはなっていない。
- 、日本ORCクラス協会は、外洋加盟団体を登録団体として募集しているがこれは1月の理事会に報告された「オフショアセーリング協会」と同じ組織となる(屋上屋を重ねる事になり会員のためにはならないのではないか?)懸念があり、4月7日に行われた外洋関係者懇談会との合意事項とは異なる。
- 、日本ORCクラス協会への参加について外洋加盟団体の会長及び役員の数名が賛成している団体は8団体が確認されているが、機関決定した加盟団体が有るのか確認は取れていない。

以上